第 75 期（2024 年度）事業の概況

1. 会　員

会員数は、2024 年 12 月 31 日現在、名誉会員 6、個人正会員 1,281、団体正会員 343（382 口）、学生会員 203 の計 1,833 であった。理事会及び会員委員会を中心に会員数の増強に努力し、個人正会員 78、団体正会員 9（9 口）、学生会員 101 の新入会を得たものの、個人正会員 139、団体正会員 13（13 口）、学生会員 100 の退会があり、前年同期に比べ計 63 が減少した。

2. 会　計

当初予算の収益は、会員数及び景気動向などを考慮し、前年度決算より受取会費 147 万 5,750 円減、事業収益 160 万 6,210 円減とした。

これに対し受取会費は、前年度決算より 124 万 7,750 円減であり、団体正会員、個人正会員、学生会員の全てにおいて前年度決算を下回った。また事業収益は、予算ほど減少しなかったものの、前年度決算より 39 万 2,910 円減となった。学術セミナー事業は、収益と費用とが予算を下回ったことにより全体として当初予算を達成でき、会誌発行事業の収益は予算を上回ったものの、前年度決算より減少した。学術講演会事業は予算と同程度であった。第 149 回講演大会では八王子観光コンベンション協会から助成（MICE 開催助成金）を受けた。経常収益計は、9,581 万 6,020 円であった。

一方、費用は、前年度決算に対して 325 万 857 円増となった。対面開催による活動が拡大したことにより旅費交通費が増加し、さらに事務局の人員増により委託費が増加した。渉外費の増加は、八王子 MICE 開催助成金で指定された使途による。また、ISO/TC107 第 36 回総会の共催負担金として 30 万円を支出した。ISO/TC107 第 36 回総会の助成金及び共催/協賛負担金 221 万円を仮受金として、費用 184 万 6,111 円を仮払金として計上している。経常費用計は、8,653 万 3,741 円であった。

以上のとおり、一般正味財産は 928 万 2,279 円増、指定正味財産は増減なく、正味財産の当年度末残高は 2 億 2 万 672 円となった。

3. 講演大会等

第 149 回講演大会（2024 年 3 月 5 日～6 日）は、工学院大学の共催を得て、同学 八王子キャンパスにおいて開催した（発表 128 件、参加登録者 375 名）。第 150 回講演大会（2024 年 9 月 12 日～13 日）は、北見工業大学において開催した（発表件数 142 件、参加登録者 303 名）。

なお、第 149 回講演大会において「第 30 回学術奨励講演賞」を 10 名に授与した。また、第 150 回講演大会において「第 26 回優秀講演賞」3 名、「第 13 回学生優秀講演賞」5 名を選考し、第 151 回講演大会（2025 年 3 月 12 日～13 日）において授与する予定である。

4. 会　誌

12 テーマの小特集及び特集を企画し、年間 12 号の会誌「表面技術」を発刊した。ページ数は総計 636 ページ、掲載論文は、研究論文 16 件・技術論文 3 件・ノート 2 件・速報論文 2 件であった。

J-Stage［科学技術情報発信・流通総合システム］には、「表面技術」の前身誌である「金属表面技術」及び「現場パンフレット（後改称：実務表面技術）」の創刊号から第 75 巻（2024 年）6 号までを登載し、研究論文・技術論文・ノート・速報論文については、第 75 巻 12 号掲載論文までを登載した。

5. セミナー

実習セミナーは現地開催、その他のセミナーはオンライン方式で開催した。夏季セミナー“表面処理入門講座（Ⅰ）”（7 月 2 日）、夏季セミナー“表面処理入門講座（Ⅱ）”（7 月 30 日）、夏季実習セミナー“めっき液の分析と管理”（8 月 27 日、於：神奈川大学 横浜キャンパス）、秋季セミナー“めっき現場における要素技術”（10 月 3 日）、秋季セミナー“難処理材へのめっき技術”（10 月 23 日）、冬季セミナー“研究/技術者のための表面処理基礎講座”（11 月 18 日）、冬季セミナー“めっき現場における IoT，AI，DX 化〈活用,導入〉”（12 月 11 日）を開催した。参加者の合計は 276 名であった。

6. SURTECH

「SURTECH 2024－表面技術要素展」は、東京ビッグサイト 東 3 ホールを会場として開催（2024 年 1 月 31 日～2 月 2 日）した。出展社(機関)は、45 社/機関、72 小間であった。特別企画コンセプトゾーンでは、全国鍍金工業組合連合会に所属するめっき事業所 21 社、日本表面処理機材工業会の会員 7 社による企業展示を実施した。来場者は同時開催展示会を含め 42,034 名であった。

なお、SURTECH 2025 実行委員会では、SURTECH 2025（2025 年 1 月 29 日～31 日）開催に向けて、フォーカス展示として、環境負荷軽減、表面改質・ドライプロセスの集中展示ゾーン及び特別企画コンセプトゾーン等の企画を進めた。

7. 国際交流

Hong Kong Surface Finishing Society からの依頼により、Interfinish 2024: The 21st Interfinish World Congress & Seminar（11 月 25 日～26 日）の発表募集を行うとともに，依頼講演者 2 名を派遣した。

8. JIS 規格検討専門委員会

溶融アルミニウムめっき（JIS H 8642：1995）改正作業が終了し、日本規格協会に原案を提出した。2025 年 1 月に開催予定の日本産業標準調査会 第 39 回金属・無機材料技術専門委員会にて審議予定である。

9. ISO 規格検討専門委員会

国際標準化機構（ISO）の TC 107 部門（金属及び無機質皮膜）の国内審議団体として、特別委員会の中に ISO 規格検討専門委員会（兼務：ISO/TC 107 国内対応委員会）を置き、国際規格の制定などに協力した。また、ISO/TC107 第 36 回総会（11 月 19 日～22 日、於：(株)島津製作所 本社 大会議室）を開催し、本分野の新規国際規格提案などについて活発な議論が行われた（参加者 14 か国延べ約 120 名）。なお、ISO/TC107 第 36 回総会の開催にあたり、「令和 6 年度経済産業省国際ルール形成・市場創造型標準化推進事業費（戦略的国際標準化加速事業）金属無機コーティングに関する標準化活動」の再委託事業を受託した。

また、「令和 6 年度経済産業省エネルギー需給構造高度化基準認証推進事業費　省エネルギー等国際標準開発（国際標準分野（新規対応分野））」の再委託事業を(株)島津製作所と共同で受託した。テーマは「温度環境制御下での樹脂めっきの密着力測定方法に関する国際標準化」である。2024 年 4 月に ISO/TC107 に提出した ISO/NP 25245 の採択に向け各国に働きかけを行い、NP ステージを通過し、作成段階(WD)の対応を進めた。

10. 表　彰

協会賞 1 名、功績賞 2 名、論文賞 1 件、進歩賞 2 名、技術功労賞 3 名を表彰した。

11. 表面処理団体協議会（表団協）

本会及び全国鍍金工業組合連合会、日本表面処理機材工業会の 3 団体で組織する表面処理団体協議会は、運営委員会 3 回、代表者会議 1 回を開催した。「SURTECH 2024－表面技術要素展」の会期中（2024 年 2 月 2 日）に第 32 回表団協セミナーを開催した。また、産官学合同会議 第 22 回情報交換会を 11 月 12 日にオンラインにて開催した。

なお、SURTECH 2025 会期中（2025 年 1 月 31 日）に第 33 回表団協セミナーを開催する予定で準備を進めた。

12. 支　部

北海道・東北・関東・中部・関西・九州の各支部は、それぞれの地域特性に対応した諸活動を行った。また、北海道支部は第 150 回講演大会の成功に貢献した。

13. 部　会

本期に活動している部会は以下のとおりである。

① アノード酸化皮膜の機能化部会
② ウエットプロセス研究部会
③ 界面部会
④ 環境および機能性に関する塗料部会
⑤ 高機能トライボ表面プロセス部会
⑥ 材料機能ドライプロセス部会
⑦ 将来めっき技術検討部会
⑧ 表協エレクトロニクス部会
⑨ 表協青年経営技術懇話会
⑩ 表面技術環境部会
⑪ 表面技術とものづくり研究部会
⑫ めっき部会
⑬ ライトメタル表面技術部会